

会 議 概 要

会議の名称	平成28年度第4回社会教育委員会会議
開催日時	平成29年3月24日(金) 13時30分 開会 17時00分 閉会
開催場所	湧別町文化センター さざ波 中会議室
出席者名	宮澤委員長、石垣副委員長、梅田委員、平野(寿)、 深谷委員、清水委員、高柳委員、多田委員、森谷委員、 三品委員、緒方委員 11名 教委～刈田教育長、岡崎課長、田中館長、根子補佐、中島副館長、 杉森係長、藤本係長、高橋係長、太田主任、片桐主任
欠席者名	安瀬委員、佐藤(あ)委員、平野(俊)委員、関谷委員、佐藤(正)委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 報告第1号 平成28年度社会教育委員各種研修会等の実績 及び平成29年度社会教育委員各種研修会等の 予定について 議案第1号 平成28年度社会教育事業実績、反省評価につ いて 議案第2号 平成29年度社会教育事業計画、予算について 議案第3号 第2次社会教育中期計画の策定について 4. その他
会議資料	平成28年度第4回社会教育委員会会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
備考	

議 事

報告第1号 平成28年度社会教育委員各種研修会等の実績及び平成29年度社会教育委員各種研修会等の予定について 原案のとおり承認

議案第1号 平成28年度社会教育事業実績、反省評価について（各担当より説明）

（平 野）チャレンジスポーツスクールでは、少年団と連携した事業を行っているか。

（藤 本）少年団との関わりはないが、小学校1年から3年の間に様々なスポーツを体験し、少年団があるバスケットや野球等の体験も行っている。それらの体験から少年団に入るきっかけづくりにもなっている。

（平 野）例えば、チャレスポで少年団の活動に出向いて、少年団の指導者や団員から、低学年でも楽しめる基本的な内容（ゲーム等）を指導してもらい体験することで、将来の少年団の選手獲得にもなるし、自分に合ったスポーツを見つけるきっかけになるのではないか。

（岡 崎）チャレスポのスタートはスポーツに馴染むこと、きっかけづくり、体験を目的に始めた事業。

（宮 澤）中期計画を立てる際に、少年団との関わりを盛り込んだら良いのではないか。

（藤 本）今後、事業の主体となっているスポーツ推進委員の会議にて、少年団との関わりを提案したい。

議案第2号 平成29年度社会教育事業計画、予算について（各担当より説明）

（宮 澤）「ふるさと体験事業」という事業は、28年度まで行っていた「ふるさと寺子屋塾」に変わるものか。

（杉 森）ふるさと寺子屋塾では宿泊等の事業を行っていたが、参加人数の減少や、ボランティアとの関わりなどから、平成29年度は、町の1次産業を知るということに絞って、農業体験事業をメインにして行いたい。

（平 野）100kmマラソンのエントリーですぐに定員になったと聞いたが、町内の希望者はエントリーできているのか。

（藤 本）地元優先枠及び一般枠で、町内希望者についてはエントリーできている。

（宮 澤）次年度の町民大学では「増田明美さん」を講師に迎え、マラソン関連の講演が予定されている。また、町民大学では予算の都合上呼ぶことが出来なかった「さかなクン」においては、良いもの見よう聞こう会にて、講演を予定してい

る。

(清 水)「さかなクン」の講演を昨年紋別市にて聞く機会があった。魚に関するイラストやクイズなどを出して大人から子どもまで楽しめる内容だった。今年、湧別に来ることをとても楽しみにしている。

議案第3号 第2次社会教育中期計画の策定について～ふりかえり～

○成人教育

(平 野)我々社会教育委員と若い世代との交流の機会をもうけてみてはどうか。20代の人達と話す期会が少なく、若者は何を考えているのか、何を感じているのかわからないことが多い。

(宮 澤)若者との共通言語がなくなってきていて、共通理解・共通認識が出来ていない。交流する期会は必要だと思う。

(清 水)私達が若いころは、年齢が上の人と壁があったし、交流を閉ざしていたと思う。上の年齢の人から歩み寄って話を聞くことで、共通の理解が生まれるのではないか。

(深 谷)スマホの普及によって、見たこともない人同士がネット上でつながることが可能になった。世界は広がったと錯覚しているが、実はすごく狭いところでは繋がっていない。

(高 柳)スポーツや文化活動などで活動している人達は、たとえ年齢が離れていても仲間意識を持ち、交流を行っている。

(多 田)同じ趣味等の共通のものがあれば、年齢の垣根無く話すことが出来る。

(岡 崎)佐呂間の「しゃべろ場」では、高校生と大人が喋りやすい雰囲気を作り出すことに時間をかけている。

(宮 澤)「しゃべろ場」では、最初にカレーライス作りという共通体験を行っている。話しやすい場を工夫して作り出している。

(岡 崎)参加していた高校生が、地元就職して社会教育委員に公募した例もあり、つながりができている。

(森 谷)若者も我々も目的は同じところを見ているが、中間のツールの使い方が違う。

青少年指導センターでは、小学生で大会に出場したり、中学生になってリーダークラブで活動していた子どもが、現在は青年団体に活動している。

(平 野)青年団体協議会では、雪中ドッチボール等の自主事業を行っている。

(宮 澤) そういった事業に社会教育委員が出向くのもいいのではないかな。

(平 野) 社会教育委員でチームを作って、ドッチボールに参加するのも良い。

(梅 田) 終了後の懇親会に参加させて頂いて、交流するのもいいのではないかな。

(多 田) 会議などの堅苦しいものではなく、飲み会等の形式で話しやすいほうが、コミュニケーションをとるには良いと思う。

○高齢者教育

(岡 崎) 現在の傾向は、60才になったからといって、老人クラブや高齢者学級に入る人はほとんどいない。

(三 品) 60歳という年齢はまだまだ活動的で、個人でやりたいことがたくさんある。わざわざ老人クラブに入る必要はないのではないかな。

(岡 崎) 年齢と活動が合っていない。生きがい・寿学級の平均年齢は70代後半であり、60代前半はほとんどいない。

(三 品) 60代から高齢者というくくりが広すぎる。高齢者をひとくりにしない計画作りが必要。

(多 田) 高齢者大学も楽しみで活動している人は多くいる。

(清 水) 60代で加入しない人は、個人で活動できるのでその後も入らない傾向。60代で加入し、周りから若いと言われることに喜びをもって活動している方もいる。

(宮 澤) 社会教育で高齢者の小さなグループの活動支援ができればいい。

(清 水) 高齢者は生き活きと好きなことをやっているイメージがある。

(岡 崎) 行政側からのアプローチではなく、それぞれの高齢者の要望を聞き支援する方が、今の時代に合っていると感じられる。

(宮 澤) やりたいことを応援する仕組みがあるといい。

(梅 田) コーディネートにより、多くのつながりが生まれる。ふるさとから学ぶ会においても、様々なつながりが生まれている。

○芸術・文化活動

(宮 澤) ピアノの仲道さんのコンサートの人数が少なかった。主催者はチケットを売る努力をしていないのではないか。「めぐみ」の映画上映会では、町の補助金を返還するほどたくさんの人に来てもらった。

(岡 崎) ビックウェーブはさざ波が出来た時に有志が芸術文化を広めるために設立された団体である。それぞれの団体の方法がある。補助金は一定の補助なので、ある程度の売上がなければ赤字となる。

(岡 崎) 遠軽町は600席のホールの建設を計画している。

(三 品) 遠軽から湧別の町民大学やコンサートに来てくれる人は多い。遠軽の公演と同じ内容にならないように広域で事業計画を立てるべきだと思う。

(岡 崎) 合併前は湧別のさざ波と上湧別のTOMの担当で調整を行っていた。同じようなことを遠軽町の担当者で行うことができたと思う。

(岡 崎) 平田オリザさんの講演内容を読む機会があり、都会との「文化格差」により、人間形成の幅が狭くなっていることが問題となっている。

(梅 田) 湧別町は、町民大学やミュージカルの体験事業など、他の町村と比べて予算が多く、恵まれているのではないか。

(多 田) 文化センターが2つあり、それぞれで公演事業を行っている。

○スポーツ振興

(宮 澤) 体育館にスポーツインストラクターが配置される。どのような内容なのか。

(藤 本) 湧別総合体育館に7月より配置予定である。マシンの使用方法やダイエット等のメニューづくりを予定している。

(三 品) 体育館は、なにかきっかけがないとなかなか行かない。何キロ痩せるとか、膝の痛みを予防する運動等、目標があれば行く目的になるのではないか。

(岡 崎) 最初は、トレーニングマシンの正しい使用方法やダイエット等のプログラム作りの相談をメインにしたいと思っている。

(平 野) こんなことができる等の提案、メニュー等があればイメージしやすい。

(宮 澤) 目標別に教室があれば参加しやすいのではないか。火曜日の夜はウエストをすっきりするトレーニング等。

(深 谷) 定期的に運動しに集まるのは楽しみ。私も厚生病院のリハビリ室に行く日は楽しみになっている。

(梅 田) 団体や職域チームで参加できる大会などは開催されているのか。

(藤 本) 自治会チームの300歳バレー大会やミニバレー協会が主催していて、知り合い同士や職場のチーム等、50チームくらい参加しているミニバレーのリーグ戦などは開催されている。

(梅 田) 大会等を通して様々な職種とのネットワークができる。

(平 野) 少年団等の大人、子どもの審判講習に対して補助制度はあるのか。

(岡 崎) 現在のところ、制度は無い。

(平 野) 審判の資格は町の財産となる。将来の指導者、育成者が育っていくのではないか。

(梅 田) 審判資格の補助は、その個人のものではなく団体のために取得するものであるため、少年団等の団体に補助するのがいいのではないか。

(清 水) 指導することに資格は必要なのか。去年の柔道大会の時に柔道教室に子どもが参加させて頂いた。町内で柔道教室があれば参加させたい。

(藤 本) 指導することには資格は必要ないが審判には資格が必要。また、柔道の指導に関しては、専門的な指導者でなければ安全上、指導することは難しい。

○生涯学習の基盤整備

(宮 澤) 公共施設管理計画により、現在の施設をそのまま維持することは多くの費用がかかり難しいため、今後、施設の統合や廃止、活用方法等を検討していきたい。

終了(16時50分)